

コンソーシアムの活動状況を知っていただくため、不定期でかわら版を発行しますのでご一読ください。

● 「改善実施プロジェクト」実践型キックオフ研修会を開催しました

木材生産の効率化ワーキンググループでは、会員企業である木材生産事業体が確実に生産性の向上が図られることを目指し、平成28年度末から「改善実施プロジェクト」に取り組んでいます。

その様な中、郡上森林組合の指導で成果をあげたFOREST MEDIA WORKS(株) 檜崎代表取締役と効果的な取組方法について協議した結果、現場での課題解決に繋げる「実践型研修会」を実施することになりました。

3月6日に開催された実践型キックオフ研修会では、檜崎代表に「生産の効率化とはなにか、どのように目指すのか」をテーマにご講演頂き、生産コストと生産性の関係や、業務改善についての基本的な考え方について学びました。

また、研修会終了後、参加者に対して実践型研修会の基礎コースへの参加を呼びかけたところ、4事業体から前向きな返事をいただきました。

いよいよ4月からは、「改善実施プロジェクト」の取組みが本格的に始まります。



熱心に話を聞く受講者



檜崎代表

● 欧州製獣害防止用資材（TUBEX）40ft-Hiコンテナが到着しました

保育の合理化ワーキンググループでは、平成28年10月から欧州地域で普及している獣害防止用資材を全国に先駆け導入し、会員企業の事業地において試験施工を行っています。

その結果、多雪地域（最大積雪深1.5m）でも倒壊が少なく、かつ植栽木の生育が施工後1年目で高さ1.5mを超えるなどの良い結果が得られたことから、平成30年度からは県内全域での効果検証に取り組むこととなりました。

獣害防止用資材の輸入代理店を務める(有)根尾開発では、40ft-Hiコンテナ（18,000本）の資材を購入し、43日間の海運と名古屋税関の通関手続きを経て、3月中旬に本巣市根尾の同社倉庫に納品されました。

また、獣害防止用資材を支える支柱については、中津川市加子母の「森の合板協同組合」の協力を得て、剥き芯材を加工することで、積雪地域でも丈夫で、かつ回収不要の自然素材の支柱として有効活用することを考えています。

今後、県内で主伐再造林を進める上では、ニホンジカの獣害対策が必要不可欠であり、その防護対策資材の主流として普及することを期待しています。



山県市椿の試験施工地



倉庫いっぱい資材

コンソーシアムで取り組んでほしい活動などありましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。

発行：岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム 事務局（岐阜県立森林文化アカデミー内）
〒501-3714 美濃市曾代88 / TEL:0575-35-2535 / FAX:0575-35-2529
E-Mail: gifu.shinrin.consortium@gmail.com